



美しいブナ林と壮大なゴルジュと

## 朝日連峰 女川牛股沢下降～女川本流下降

手嶋

【日時】 2009年7月24日(金)～26日(日)

【メンバー】L佐貫、手嶋、田村、浅井

なかなか実質上梅雨が明けずに悪天が続くが、予報も悪い中、まあやれるだけやってみましょうということで実行の運びとなった。はてさて初めての山域だが、どんな山行になるのやら・・・。

源太郎から新宿駅に直行、「ムーンライト越後」の人となる。今回は流域の東端からはいり西に抜けて行く案で、佐貫リーダーの「流域の概念をつかみたい」との考えからこのようなルート取りとなり、電車でのアプローチとなった。

2度ほど電車を乗り換えて小国に着くころには雨も上がり、まあまあの天気となった。タクシーで尻無沢集落の奥まで入る。林道から右に地図にもある山道に入るのだが、今回はここが最大の核心部となった。

山道はすぐに二俣となる。地図的には右に行くわけで、沢を渡って右手の斜面を登り始めるが、すぐに道は消え入りそうになる。戻って先ほどの二俣を、より道の鮮明な左手に行く。急登に汗をかきながら登るのだが、もう稜線が遠くない頃、やがて道は消えてしまい完全なヤブとなってしまった。

このまま行ってしまえばばかりに突き進むが、非常に急な部分に行き当たり、これをお助けなども出しながら何とか登っていく。やがて辺りは平坦になり稜線に出たことがわかるが、地図で地形を読むとずっと南の720m辺りに出てしまったことがわかった。急だった部分は地図上の崖マークで、何とか間を縫ってきたようである。

五郎三郎沢に下ってしまおうかと迷ったが、ヤブも濃くないので北上し、まさに地図で道が現れるはずのところではっきりした道と出合った。ここからはしっかりした山道を下って牛股沢の二俣によく到達することができた。ここまで4時間半かかった。この山道、多くの人が我々のたどったルートでハマルらしい。正しいルートを聞いておいたので、行く人は私に声をかけて下さい。

さて、大休止後に牛股沢の下降を始めるが、ここが何とも素晴らしいブナ林の連続であった。たまに陽がさす中、穏やかな気持ちで下降を続けていく。2～3箇所ゴルジュを右岸から巻くが、朝日連峰特有の河岸段丘上の平坦なブナ林の中に踏み後はしっかりしており、何の問題もない。



下流部右岸のブナ林の中にそれこそ30畳より広いような素晴らしいテン場があり、後ろ髪を引かれるが、予定のテン場に向け進む。後で聞くと高桑氏が前週ここに泊まったとか。

最後のゴルジュを右左から巻くと白沢出合。これを少し上流に行くと、ブナ林の中に先ほどのテン場と全く遜色ないテン場が現れ、迷うことなくここにテントを張った。私と田村君は釣りに出かけるなど、皆思い思いの時をゆったりと過ごした。



冒頭に述べたように予報が概して良くなく、2日目はまだしも3日目は悪天が心配されたので、2日目に予定されていた頭巾山の沢からの登頂をやめ、2日目に女川本流を下って安全地帯に出てしまおうということで、テン場を後にした。

相変わらず美しく穏やかなブナ林が続く。女川というゴルジュで名前が知られているようだが、このブナ林は一見の価値がある。こんなに標高の低いところにこのような奥深く素晴らしい手付かずの自然があることは感激である。

時に小さなゴルジュとなるが、問題なくへつりて進んでいける。しかし流程半ば過ぎ、地図上でゴルジュマークが出始める頃から、兩岸は立ちゴルジュが本格的になってきた。思い切ってラッコ泳ぎで下る。1回これが決まると、もうこれに勝るものはない。滝が全くないのいいことに、流れの急なところもどこでも佐貫さんを先頭にラッコ泳ぎで下る下る。幸いなことに天気もよく、快適なゴルジュ下りだ。ただこの水量だと溯行するのは結構しんどいと思われた。



ほとんど体がふやけそうになった頃、ようやくにして矢木ノ沢出合に到着。少し入ったところにある山道の横断を確認してここで沢を終了、大休止となった。動物性タンパク質を少々仕入れた後、危なっかしい縄梯子のような鉄製ハシゴがかかる道を攀じ登る。ここは結構急であった。

少し行くと林道終点の工事現場があり、ここから林道歩きとなる。今日ではできれば焚き火をしながら水のそばでテントを張りたいということで、林道上からはるか下の本流を物色し、気持ちのよい砂地が広がっているところにテン場を定めた。ここからがまた1つの事件であった。



ビールを飲み干し、そろそろ濃い酒も進み始めた頃、突如として雷雨となった。雷雨は10分程であがり特に増水もなく、よかったよかったとなるが、20分くらい経った頃から増水が始まった。10cm近く増水したところで、リーダーの一声「撤収しましょう！」



正直私はそれ以上増水が進む様子はなさそうと見て大丈夫かと思

ったが、まあリーダーの判断に従おうということで荷物を片付け始めたが、ふと気づくと水面から50cm以上のところにあった焚き火はすでに水の下であった。増水前は20mほどの幅の谷底はまるで子供が川遊びでもしそうな砂地と穏やかな流れがあったのだが、もはや谷幅一杯の濁流が荒れ狂っている。テン場が冠水するまでにはまだ時間がありそうだったので問題なく逃げられたが、本当の増水の恐ろしさを久しぶりに見た。それにつけても佐貫リーダーの経験と勘に基づく判断には感服である。

結局上の林道に上がったところにあった工事の広場でテントを張り、途中だった濃い酒を飲み続けたことは言うまでもない。

最終日、林道歩きを残すのみ。長いと思っていた林道も2時間かからずに中束（なかまるけ）の集落へ到着し、タクシーで越後下関に向かった。その後今回は青春18切符ということで鈍行電車を6本乗り継いで家に帰る頃には、さすがに疲れた。

それにしてもいい流域だった。あのブナ林とゴルジュのコントラストは何とも素晴らしい。流域は広く、登って楽しそうなところはたくさんあるので、是非また来たいところだということで、皆の意見は一致した。

今回は沢部分は全て下降だった。まるで山スキーのようなこの形態を、「沢登り」と称していいのかどうか・・・??まあ難しいことは言うまい。

【グレード】総合的に3級

【行程】7/24 尻無沢奥林道途中(9:00)～牛股沢二俣 (13:30/14:00)～白沢出合奥テン場 (16:15)

7/25 テン場(6:45)～(途中釣り休憩1時間ほど)～矢木ノ沢出合 (13:00/14:20)～川原のテン場(15:00)～林道テン場

7/26 テン場(6:10)～中束集落(8:00)

【地図】舟渡、越後下関

